


医療経済社会科学 No.5

健康格差とSDH

—— 社会的決定要因から健康を論じる

 **目標**：健康格差（Health Inequality）の原因が個人の生活習慣だけでなく、社会的決定要因（SDH：Social Determinants of Health）にあることを理解し、WHOのSDH委員会報告（2008年）を踏まえて医師の社会的役割を論じられるようにする。

 **衝撃体験**：この授業の核心

導入：同じ都市の中で、豊かな地区と貧しい地区では平均寿命が10～20年違うことがある。これは個人の不摂生ではなく、社会的・経済的環境の差が健康に直結していることを示している。

清光学院 AP SEIKO / スプリント医療経済社会科学 No.5

採点者の視点 —— 合格答案と不合格答案の分岐点

採点者の視点

採点者の視点

採点者はここを見ている —— 健康格差・SDH・社会的決定要因で合格答案はこういう「構造」をしている

① なぜ同じ答えでも評価が違うのか

清光学院の講師陣は、これまでに皆さんと同じ志を持った先輩受験生たちの答案を何千枚も採点し、合格・不合格の判定を下してきました。その経験から言えることが一つあります。

「正しい答えを出していても、なぜそう考えたのかが見えない答案は、採点者の印象に残らない。」

健康格差・SDH・社会的決定要因では、**健康格差の構造的根拠**が答案の質を大きく左右します。

② 健康格差・SDH・社会的決定要因で採点者が見ているポイント

「SDH（社会的健康決定要因）の枠組みで健康格差の構造的原因を示した答案」が採点者評価を上げる

この授業の使い方

各問題のワンポイントには「採点者がどこを評価するか」の視点が含まれています。答えを出すだけでなく、根拠を一文添える習慣を意識しながら取り組んでください。

③ 総合型選抜・口頭試問でも同じ構造が問われる

採点者（大学教員）が口頭試問で確認したいのは「答えが出るか」ではなく「思考の構造を説明できるか」です。この授業で習得する「上から俯瞰する」視点は、あらゆる試験形式に通用します。

核心1：SDH（社会的決定要因）の6分類

SDH（社会的決定要因）の6分類：①経済的安定（収入・雇用）②教育アクセス③医療アクセス④近隣環境（住居・食環境・安全）⑤社会的コミュニティ⑥健康リテラシー。これらすべてが疾病予防・寿命に影響する。

核心2：マーモットレポート（WHO SDH委員会 2008年）

マーモットレポート（WHO SDH委員会 2008年）：「健康の社会的決定要因：公平性のある行動」——健康格差は不公正であり（Avoidable・Unjust）、社会政策によって対処可能と主張。個人責任論に対する反論の核心。

核心3：医師の社会的処方（Social Prescribing）

医師の社会的処方（Social Prescribing）：薬だけでなく「住居・雇用・孤立」への介入が健康増進につながる新しいアプローチ。貧困・孤独・教育格差に対処することが医師の役割に含まれるという現代的拡張。

 **続きは講義でご覧いただけます**

この教材には、採点者の視点・核心的な解法・入試問題・演習・まとめがさらに収録されています。

大学教授陣が設計した「普通の授業では出会えない接続点」を体験できる完全版は講義でご提供いたします。